岐阜新聞真学塾

出題　蛍雪ゼミナール　大垣駅前校・築樋拓真

問題【国語】

次の傍線部のうち、形容動詞でないものを選びなさい。

1．直（じき）に来るだろう。
2．静かな所を探して回った。
3．彼の見解は楽観的だ。
4．この部屋は異常に寒い。

豆知識 雑学コラム　形容動詞とは？

今日は形容動詞について、考えていきましょう。形容動詞とは「『静かだ』のように活用があって、言い切る形が『だ』で終わる言葉」です。活用をするということは、終止形「～だ」の形にして言い切ることができ、連体形「～な」にして名詞を修飾できるということですね。

今回の問題では、それぞれの言葉を形容動詞の活用に当てはめて、「～だ」で言い切れるか、「～な」で名詞を修飾できるかを考えてみましょう。そうすると「直な人」、「直なもの」とは言えないので、「直に」が形容動詞ではなく、副詞だとわかります。

形容動詞とは何かと聞かれると、「形容詞みたいだけれど、動詞みたいな言葉」と説明する人もいるかもしれませんね。確かに形容動詞は形容詞のような特徴と動詞のような特徴を兼ね備えた言葉です。では、形容動詞のどんなところが「形容詞」でどんなところが「動詞」なのでしょうか。

まず、形容詞とは、「部屋が寒い」の「寒い」のように、状態や性質を詳しく説明する言葉ですね。問題の文では、形容動詞の「静かな」が探しているところの状態を詳しく説明しています。このように形容動詞は「状態や性質を詳しく説明する言葉である」という点で形容詞のような特徴を持った言葉といえます。

では、動詞についてはどうかというと、古文での形容動詞の活用にポイントがあります。古文では形容動詞「静かなり」は「なら・なり・なり・なる・なれ・なれ（連用形は『に』と活用することもあります）」と活用します。これがラ行変格活用動詞「あり」の「あら・あり・あり・ある・あれ・あれ」と似ていることから、「形容詞のように状態や性質を詳しく説明して、動詞のように活用する言葉」で「形容動詞」と名付けられました。

さて、現代の日本語では形容動詞は「だろ・だっ・で・に・だ・な・なら」と動詞と全く違う活用しています。そのため、古文を全く使わない外国の人が日本語を学ぶときには、形容動詞のことを「連体形が「～な」になる形容詞」で「ナ形容詞」、「寒い」のような普通の形容詞のことを「連体形が「～い」になる形容詞」で「イ形容詞」と呼んで教えることがあります。同じ日本語の文法でも、日本人と外国人で違う用語を使って説明されているのは面白いですね。

【解答】　1